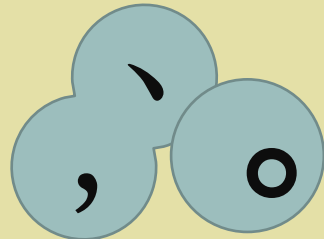


国立国語研究所学術情報リポジトリ

日本語の表記から考える書き手の個性

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-03-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岩崎, 拓也 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.15084/00003203 |

日本語の表記から考える書き手の個性



国立国語研究所 日本語教育研究領域
特任助教（人文知コミュニケーター）

岩崎 拓也（いわさき たくや）

私は日本語の表記の中でも、マル「。」と
テン「、」（句読点）の研究をしています。
簡単にみえる日本語のマル「。」とテン「、」で
すが、意外と悩むところがあるんです。

マル「。」とテン「、」の“一応の”ルール（の一部）

マル「。」 文の終わりにつける。

かぎカッコ「」の中の文の終わりにつける。

テン「、」 文の中止に打つ。副詞的語句の前後に打つ。

マルのゆれ

学校ではかぎカッコ「」の中の文の終わりにマルをつけると習う。

• 「ぼくの顔をお食べ。」

でも、実際には句点をつけない場合が多い。

• 「ぼくの顔をお食べ」

→学校で習うマルのつけ方と社会一般のマルのつけ方は異なる。

テンのゆれ

• 僕の顔を食べるとみんなニコッと笑顔になるんだ。

• 僕の顔を食べると、みんな、ニコッと笑顔になるんだ。

• 僕の顔を食べるとみんな、ニコッと笑顔になるんだ。

• みんな僕の顔を食べると、みんなニコッと笑顔になるんだ。

→書き手によってテンを打つ位置が違うことがある。

まとめ

• マル「。」とテン「、」は、簡単なようで悩むところがある。

• みなさんにとって見やすくわかりやすい表記方法を考えていく必要がある。

みなさんの句読点はどうでしょうか？

自分の文章をぜひ確認してみてください！